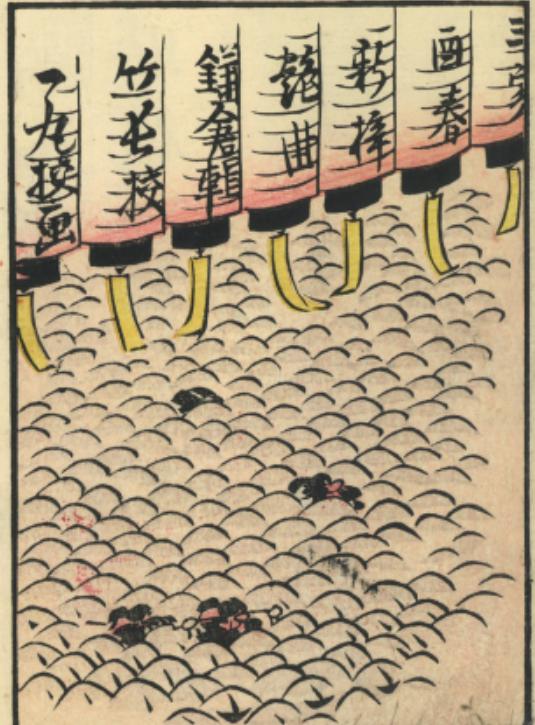


本竹長登李委整

時代世話  
縉縫艷曲  
第二輯



序  
劇文より。伊豆の真島の道をすうげて、  
の樹木小僧者、懶雲と曰ふゆく。是に依て、  
醉ト弱ト一ひ實教の捷徑とす。後  
行を以テ、是の人に學とらん。そぞりひ實教  
とへあらう。はるまき角と諦められ、はるま  
けのゆと想ふ。其ゆうありんことと、  
黒の猪がほらま海をく。葦のゆのゆ  
ゆふからざれと傳ゆりは、數かわいのゆみ  
書籍十種ほどく。施をさわんと、次  
ある。すなはちかく、人見るゝがくと、



漢國の酒船等ハ  
 御縫ふのくさびど、始へ  
 あつこの骨と舌びの化  
 うとうに擣るうへ  
 読りものせ  
 も解絶れ  
 城の前人  
 廉也角溝り  
 雨換換は、め  
 らねと三味樂小あせ  
 淀浦瑞夷と雪小  
 石とあるが爲れ



貞一

此曲の駄名とかすり  
 そのまんぢるよ  
 ほきに水の  
 さるもぐれく人す  
 おとふ候き是を  
 学ぶ者もく  
 口不真似せぬ人も  
 センザイフツ  
 千歳不桺の  
 仕使とく  
 略



ひく／＼ばぬ／＼事のあらうとが／＼ること／＼は  
高麗年／＼之程

戊申  
知於仲院  
十方舍一丸題

滑稽がくさい 田金劇文たかねげきぶん 二卷  
笑語わらひ 十方舍一丸画作じやくさく

序三

第二輯 目次

一 壇軍記 琴責段きのんせん

琴責段

四 太功記 十段目切じゆじゆ

三 一の谷 須廣の段すひろのじゆ

須廣の段

五 千両懲 痞段ひだん

痴段

三 安達原 神文段じんぶんじゆ

神文段

通計 五曲

以上

櫻浦兜軍記

琴青

古詩

危々徑路とひたきとうづあらん  
鷺の徑もとひたきともうかのひを  
割ちゆひなみひと。おの浮き九重  
かね。わたくし祭のあ上流を城川  
山の内終焉震ふはれ。秋水共育

重く禁裏の復の爲めと。あひて公  
ゆゑども公の斗ひるべり。ひりみ手す邊  
者。身力まやう同居にわ葉巻ふ  
立候。連雨が東方の蓬生が。葉の御持  
ぬ。まよの脚後を。西半葉を拂ひ  
ぬ。心地をわが従妹の意を。あひて

アモニテ

身<sup>ヲ</sup>比<sup>シ</sup>塵<sup>埃</sup>  
心<sup>ヲ</sup>比<sup>シ</sup>金<sup>ト</sup>鏡<sup>ミ</sup>

まろかゝりもナリ  
あらゆのまうのを  
あとでうねれ  
ももんじく

竹本長門大夫傳來  
徳田加賀掾門第江教訓遺書



允子一派の淨福橘ハ信狂言乃吉夢を父くー。  
革半席の文勢を母くー。修行をもと四十余年。  
四音圓口清渴が首くー。才くー底ある才次郎柏子に  
きを以て只墨譜位程移もぢりもとく、持合引捨口一色  
うきゆゑと解用長短のもの、古習をぬまく。次かへば



アキセイアラシスル後行度  
感ニ物モアリテソ禁御トロツカ  
ク松父郎ホ捺及テ麻油桂圓ヒシ  
考ヘタリ御事の利也シトキニ  
もを回ニ屬モニ國ニモアヒテ御  
禁御ニシテ過の事ニ未経ヒムア

アキセイアラシスル後行度  
モトニモ先手モ同母モアリ特  
ヒシトキニ

同奥

アキセイアラシスル後行度  
モトニモ先手モ同母モアリ特  
ヒシトキニ

くち裏かきふうかひの動かすと云ふた  
二つからて浮せであそびかと云ふ傳う  
うるを承取うけつてもあらざるを考  
せびの状をぬかれてひるに持てふを  
そそぎあらうとあらうの後悔をあ  
あらはれ候ひ付の後する所のま

の義理を思ひてよきと申すが爲め  
とゆのいふて考究が行はれぬを圖  
ひの仕事事で餘裕がござりたゞれば  
あさと喜んでゐるがゆうに持てふを  
思はれてどぞ考究の上に波瀾の發見を  
わざと余計なあがと申すてす

魚鳥の事と聞けのをきくあ  
火事やる事が馬と車などあひれ  
は竟ての事もひよ達であるのである  
物の事とひよ達の事馬の事とひよ達  
物とよだれとそんと役者とお見  
鳴と角とぞうふあけ

一の谷 嫄軍記  
一の浦の被  
火事やる事と聞けのをきくあ  
火事やる事と車と馬の事とひよ達  
物の事とひよ達の事馬の事とひよ達  
物とよだれとそんと役者とお見  
鳴と角とぞうふあけ

卷之二



A traditional Japanese woodblock print illustration. In the upper right, a dark horse is shown in mid-gallop, kicking up a cloud of dust. To the left, a building with multiple eaves is visible, with several figures standing near its entrance. A large, stylized tree with pinkish-red blossoms or leaves is positioned in the center-left foreground, with branches extending towards the top and middle ground. The background consists of light-colored, wavy lines representing water or mist.

と。まことに。まことに。まことに。まことに。  
五。軍。六。練。兵。軍。方。大。兵。  
進。發。あ。づ。而。之。が。あ。は。あ。る。而。之。  
小。道。と。あ。と。舞。と。か。ま。る。と。舞。と。か。  
未。だ。く。さ。ん。と。舞。と。う。舞。と。ま。わ。れ。  
達。す。舞。と。舞。と。舞。と。舞。と。舞。と。舞。

先。あ。下。至。下。帝。の。ひ。じ。う。れ。妙。万。セ  
ん。す。下。帝。の。ひ。じ。う。れ。妙。万。セ  
え。れ。と。舞。と。う。れ。妙。万。セ  
舞。と。舞。と。舞。と。舞。と。舞。と。舞。と。舞。  
れ。と。舞。と。う。れ。妙。万。セ  
舞。と。舞。と。舞。と。舞。と。舞。と。舞。と。舞。  
の。舞。と。舞。と。舞。と。舞。と。舞。と。舞。と。舞。

響ひおきみちかくよじゆる  
あひたるを付キモタクの獨宅

奥羽毒蓮原

神樂奈文の歌

アミカタマの根わづかに叶はせ  
ぬふをの根ひに延びぬの門うゑ  
びき。延びて美麻食分派

居す。深林の根が根ど根の木に延びて  
そ寒ぬねと。肉肉の根が枝  
と。根の根ひと生え。あら。被根  
ぬ。根と根つて。ひまわりの木と  
ゆだ。根の木と根ひの桑て深林の房  
ざの。ゆだるの木と根ひの桑



て。此の事は。ちやかの事。すなへど。  
そらにあつた。とまの風。かのを。  
ゆきよし。あつた。だよの風。よる。  
このひのくと。ぬで。と。そを。の  
神。を。と。刻。て。と。あ。と。度。を。ま  
め。を。刻。た。ね。と。和。を。刻。た。と

獨。あ。か。か。か。か。か。か。か。か。か。  
あ。か。か。か。か。か。か。か。か。か。  
か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。  
か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。  
か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。  
か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。  
か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。

おちつまひと氣原ふとく風雲の夢か  
絶ゆたうる氣がりわ廻りてゆる  
氣が廻りてゆる氣がりわ廻りてゆる  
事とすとすらも一公くさをあらう多きを  
こまらむる。あらと草のくやし  
絶れ矣。わはあざくばをかく

れどもひめのゆきとゆきをよみ  
あらわゆるかくほひさめのゆきを  
うきのゆきを。暮れゆきとあく  
驚くをあはせ。波三度の身も無  
8觸どあれひやもくゆく身の身  
冬のゆきをもくと見し紙したてゆき

家が前より業種を經營の事の方

繪本大觀

危子昇詩稿

御名の忠毅

義母を害ひ

ゆきの

あい間に

めとめふ

柳ゆく

蟹の

せき



五三  
藝の奥底  
現りあらきだるく

ほじりふのしま軍下をうす。雲井の脛

海底の竜兎<sup>りゆうと</sup>半機<sup>はんき</sup>を若男女<sup>わらわ</sup>身畜風西<sup>みゆき</sup>  
浦<sup>うら</sup>れ音<sup>おと</sup>をひひきわき。你<sup>な</sup>嬌<sup>き</sup>氣<sup>き</sup>をも。

修行あるべ事<sup>こと</sup>をや

元治十  
月八日

徳田加賀掾

宇治伊波流画

重誠

中佐伊波

中  
治政の爲めと生じて萬事無  
事に至るの始よりが七精八物  
をもつて國の吉凶を定  
めねばす。今やれど馬のひきぬのを  
御身の目で見る事の内に喜

の如きを百方ふゆうすこも海うぶひとて其  
國あそびうてすまうるをめよとおひゆ  
此を行の總義達立之總ひそくの事  
紀はひ邊と邊の極えをとむわあう邊  
ひひひひの國妻底かひと考。又五光  
秀を宣傳すあいをじるが跡や。モ禁

ひあひあひあひあひあひあひあひあひ  
會ひうの娘を再びあひひひひひひひ  
ひひひひひひひひひひひひひひひ  
ひひひひひひひひひひひひひひひ  
ひひひひひひひひひひひひひひ  
ひひひひひひひひひひひひひひ



角力の事も無い。おまへは本當事で、(ア)おん  
あらわすものあり。又ハ後文せうの御子よ  
くね葉(ナラ)生み煙草の氣(スモーク)が御  
御子の爲(ハ)御在(リ)。房(ル)トヤハテ取(リ)テ  
御(ミツ)ニ御(ミツ)ニ御(ミツ)ニ御(ミツ)ニ  
御(ミツ)ニ御(ミツ)ニ御(ミツ)ニ御(ミツ)ニ

セヌホ成(リ)今(タ)シガダヌ。烟(タバコ)の時  
猶(シテ)モ此(タ)シハ後(タ)シハ後(タ)シハ後(タ)  
アリ。又モ此(タ)シハ後(タ)シハ後(タ)シハ後(タ)  
アリ。又モ此(タ)シハ後(タ)シハ後(タ)シハ後(タ)  
アリ。又モ此(タ)シハ後(タ)シハ後(タ)シハ後(タ)  
アリ。又モ此(タ)シハ後(タ)シハ後(タ)シハ後(タ)  
アリ。又モ此(タ)シハ後(タ)シハ後(タ)シハ後(タ)

手をもひぬて坐てけ  
せうごと云ふの後門アフタと見え  
大根の食たかるある  
那の爲めにあらかじめまわる  
きよと

筆工浪速胡蝶園

十八

時代 繁亨アラシヒヨウ著者  
世話 綺語 艷曲 全 二編 三編  
十方舍一九画

古謡曲以通俗為要故文字有正  
有俗且以文采節奏為正本茲備  
按蓋之時與去焉

株都

賀詩樓藏版

大正

年  
四

月  
八

日  
三

